

万葉集

[vol.52]

日本に現存する
最古の和歌集「万葉集」を
わかりやすくご紹介します



情報の取捨



【訳】

三輪山をこのように隠すのか。
せめて雲だけでも心あつてほしいものを。隠すべきではない。

三輪山を しかも隠すか 雲だにも 情あらなむ 隠さふべしや

額田王 卷一 一八番歌一

ある事柄を伝えようとする時、何を伝えたいのかによって情報は取捨されます。その結果、同じ事柄でも印象が一変することがあります。

この歌は、歌に付された注では、山上憶良の『類聚歌林』を引用しており、それによると近江遷都の際に中大兄皇子が三輪山を見た時の歌と解釈されます。この歌を中大兄の作とする説もありますが、中大兄は形式的作者、実作者が額田王という説もあります。近江遷都によって住み慣れた大和国を離れようという時に、大和国の人々にとって象徴的な山である三輪山への愛惜の念が歌われている印象的な歌です。

この歌の注には『日本書紀』も引用され、「六年丙寅春三月辛酉の朔の己卯、都を近江に遷す」という記述が見られます。ところが、同書には『万葉集』に引用されない続きがあります。それによると、人々は中大兄が決定した近江遷都をよく思っ

ておらず、遠回しに諷刺する者や童謡（政治や社会を風刺する歌）も多くあり、さらには、日夜火災が発生したというのです。

この歌に注をつけた人物は、『日本書紀』の続きの文章を意図的に引用しなかったように思われます。もし引用したなら、大和国との別れを惜しむこの歌が中大兄のことを「遠回しに諷刺する」歌のように受け取られかねません。それよりも『類聚歌林』を多く引用し、中大兄が三輪山を見た際の歌とすることで、中大兄自身も大和国を離れることに特別の思いを持っていたと感ぜられるような構成になっています。

『日本書紀』等の情報の取捨によつて、『万葉集』の注は近江遷都の印象をガラリと変化させているように見えます。私たちの身近なことで、情報の取捨に注意すると別のこ

(本文 万葉文化館 吉原啓)

万葉ちゃんの

つぶやき

和歌に
関連するものを
紹介するよ!



万葉ちゃん

大神神社

桜井市にある大神神社は、三輪山をご神体とする日本最古の神社です。大神神社から狭井神社までの「くすり道」の両脇には、薬業関係者から奉納された薬草や薬木が植えられています。

春の花びらが散る時期には、疫神が分散して流行病を起こすと信じられ、災難・疫病を鎮めるために、毎年4月18日には、鎮花祭が行われます。「薬まつり」の名でも知られ、全国の製薬業者や医療関係者が多数参列します。



☎大神神社 ☎0744-42-6633

☎県広報広聴課 ☎0742-27-8326 FAX0742-22-6904